

【1年4組 關 真菜】

当時のまま残されている原爆ドームは、テレビなどでは見ることで見えない様子まで見ることができました。また、平和記念資料館では、実際に着ていた服や原爆投下直後の悲惨な様子などが展示されていました。私は現地へ行き、被爆直後の人々の様子や広島の方たちの思いについて学ぶことができました。語り部の方のお話にもあったように、未来に戦争はいりません。私たちは語り部の方々の思いを背負って、戦争のない未来、核兵器のない世界を目指して、次の世代につなげていきたいと思います。



【1年4組 瀬戸山ひなた】

原爆は多くの人々の命を奪い、生き残った人にもつらい後遺症を与えました。そして、病気になるだけでなく精神的な被害も受け、今なお苦しんでいる人々がいます。広島への原爆投下は戦争から起こったことです。原爆投下を防ぐ前に、私たちはまず、戦争をなくすことを考えなければなりません。原爆投下や戦争は人々を苦しめるものであり、二度と起こしてはいけないことなのです。そのことを、次の世代に伝えていくのは私たちです。そして、少しでも多くの人にこれらの怖さを知ってもらいたいと思います。



【1年5組 下山七海】

「爆風や突然のまぶし過ぎるくらいの光、今にも溶けてしまいそうなほどの熱で、その人が誰なのかも分からない。自分の感情までもが奪われた」と語ったのは、語り部の世良豊子さん。私にとって原爆の恐ろしさを痛感する、心に響く一言でした。当時の広島では、世良さんをはじめ、生まれる子どもに被爆による障害が出るのではないかと不安を抱える人が多くいたといいます。原爆はその人に限らず、周りの人の人生や思いまでも狂わせてしまうと知りました。今回広島を訪れ、もう一つの被爆都市の長崎ではどのような悲劇があったのかも調べたいと思いました。



【1年7組 奥山愛梨】

原爆による被害を調べると、その恐ろしさがよく分かりました。爆心地から500m以内にいた方の約90%、500m～1km以内にいた方の約60～70%が亡くなっています。原爆ドームや平和記念資料館の資料、語り部の方から聞いたお話の中には、私にとって見たり聞いたりすることがつらくなるものがありました。しかし、私たちはそれらから目をそらさずに向き合わなければいけないと思いました。戦争、原爆で亡くなってしまった方の「戦争をしてはいけない」「原爆を使ってはいけない」という強い思いを、未来に伝えていきたいです。



【1年7組 花井瑞歩】

語り部の方の願いは、原爆の恐ろしさを知ってもらい、この世から核をなくすことです。つらい記憶をよみがえらせるため、原爆ドームを撤去すべきだという声もありますが、私は戦争の事実を正しく認識し、二度とこのような惨事を起こしてはならないことを世界に伝えるためにも、残しておくべきだと思います。平和記念資料館には、今の広島からは想像もできない当時の悲惨な様子が残されていました。私はそれらを見て、「二度と戦争は起こしてはならない」「このようなつらい思いをする人を出してはならない」と心から思いました。

